

『星陰りて、謀り響く』追加ハンドアウト  
石板〈ハスターの招来・解放〉

陰謀論者のマードーミステリー

条件: カード「石板〈ハスターの招来・解放〉」を所有すること

古代アコール語の知識を有すること

ネタバレ防止用ページ

# エンディングでの行動

このハンドアウトを受け取ったことで

エンディングで以下の行動が可能となりました。

「呪文〈ハスターの招来・解放〉」を詠唱する

いあ いあ はすたあ  
**Ia ! Ia ! Hastur!**

はすたあ くふあやく ぶるぐとむ ぶるぐとらんぐるん ぶるぐとむ  
**Hastur cf'ayak 'vulgtmm, vugtlagln, vulgtmm!**

あい あい はすたあ  
**Ai ! Ai ! Hastur!**

ただし、以下の条件を満たしている必要があります。

- ・カード「石板〈ハスターの招来・解放〉」を所有している
- ・モノリス（超高層ビル&ファロス灯台）が残っている

次ページはフレーバーテキストです。

金庫の重い扉を開けると、かび臭<sup>くさ</sup>さが流れ出した。

「これは教団の大切な宝です。いつか私たちがいなくなっても、命に代えても、必ずお守りしなさい。いつしかハスター様がこの地球を支配する、その日まで」

両親の厳しい声がよみがえる。金庫に入っていたのは果たして、12 年前に奪われた石板だった。『ハスター様の招来・解放』。

キャロルは碑文<sup>ひぶん</sup>を読み上げた。小さいころはチンプンカンプンだった象形文字<sup>しょうけいもじ</sup>が、いまならすらすら入ってくる。

「Ia! Ia! Hastur! Hastur cf'ayak 'vulgtmm, vugtlagln, vulgtmm! Ai! Ai! Hastur!」

気が付けば、キャロルは呪文<sup>せんりつ</sup>を旋律に乗せて歌っていた。教授の解説はなにも間違っていないなかった。足りないのは音楽だった。

「Ia! Ia! Hastur! Hastur cf'ayak 'vulgtmm, vugtlagln, vulgtmm! Ai! Ai! Hastur!」

そのメロディーはとても懐かしい気がした。

とても優しい気がした。

とても悲しい気がした。

キャロルは、両親が歌ってくれた子守唄を歌っていた。

「Ia! Ia! Hastur! Hastur cf'ayak 'vulgtmm, vugtlagln, vulgtmm! Ai! Ai! Hastur!」

高き空に、アルデバランいまだ南中<sup>なんちゆう</sup>せず。

しかし、宇宙の彼方で確かに、ハスター様が、両親が。

ほほえんだ気がした。